

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(22年5月) —物価上昇の裾野も広がり、8%を超える

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年同期比で8%台の伸び率に

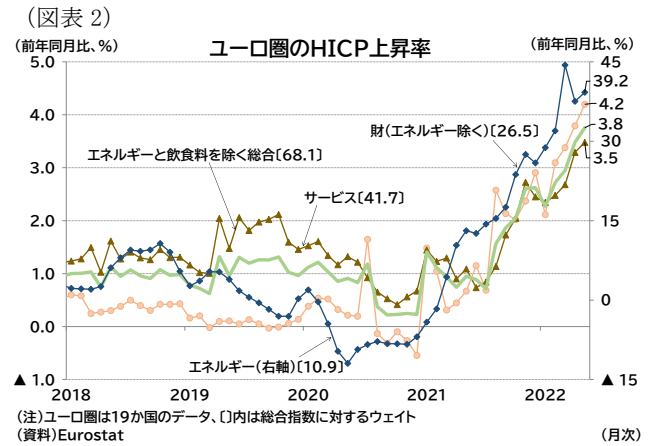
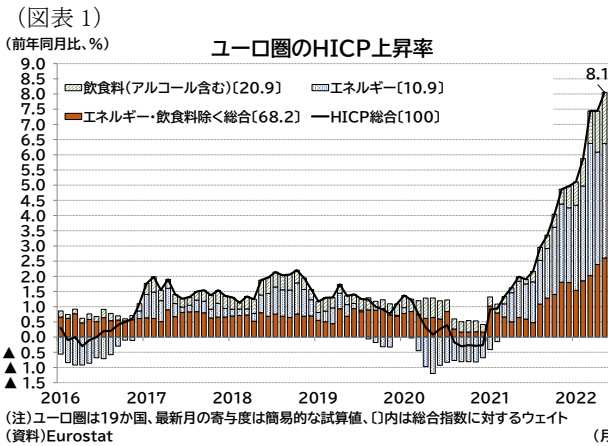
5月31日、欧州委員会統計局(Eurostat)は3月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は8.1%、市場予想¹(7.8%)を上回り、前月(7.4%)から加速(図表1)
- ・前月比は0.8%、予想(0.6%)を上回り、前月(0.6%)からは加速

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は3.8%、予想(3.6%)を上回り、前月(3.5%)から加速(図表2)
- ・前月比は0.5%、前月(1.1%)から減速した



2. 結果の詳細:6か国では前年比2桁の伸び率に

22年5月のHICP上昇率(前年同月比)は全体で8.1%となり、4月の7.4%から大幅に加速した。「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」も3.8%と前月(3.5%)から加速した。以下で見る通り5月はエネルギーの伸び率が高止まるなかで、飲食料の伸びが全体の伸び率を押し上げた。また、コア部分も4月時点で幅広いカテゴリーの加速が見られており、インフレ圧力は強い。

4月の伸び率はエネルギー価格の減速を受けて、3月と同じ伸び率となっていたが、5月は再びデ

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

一タ公表以来の最も高い伸び率を更新したことになる。

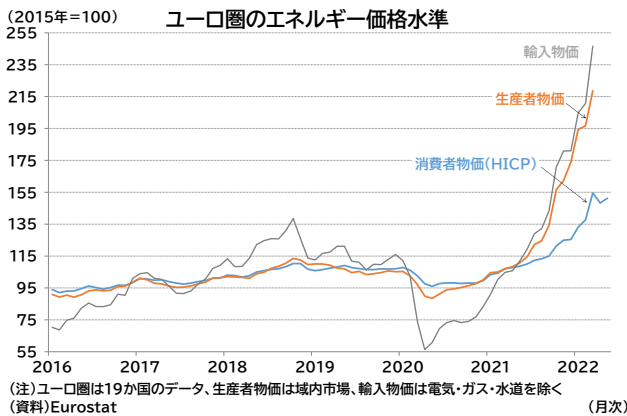
以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料（アルコール含む）」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財（飲食料も除く）」は3月3.4%→4月3.8%→5月4.2%と4%台に突入した。「サービス」（エネルギーを除く）も3月2.7%→4月3.3%→5月3.5%と3%超で加速が続いている（図表3）。

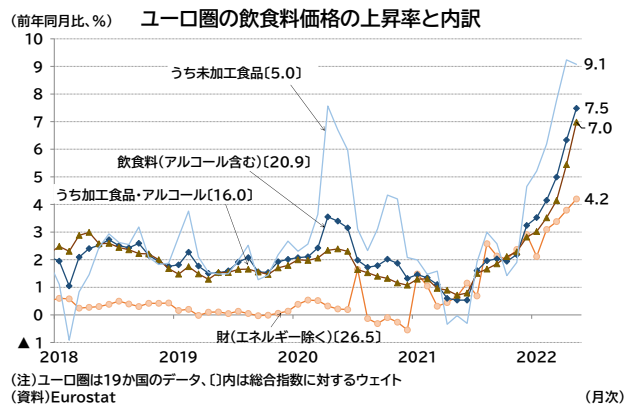
品目別に見ると、4月までのデータであるが、娯楽業が2月3.1%→3月3.1%→4月3.6%、外食・宿泊業が2月4.4%→3月5.1%→4月5.9%と対面サービス産業の加速が続いている。また、光熱費（4月15.9%）や輸送（4月13.0%）がエネルギー価格高騰の影響を受けて2桁の伸び率が続いているほか、家具も2月3.8%→3月4.2%→4月5.0%と加速が顕著になっている。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で3月44.3%→4月37.5%→5月39.2%と再び上昇幅が拡大し、前月比では2.0%（4月は▲4.1%）とプラスになった（図表3）。前年同期比の寄与度は3.77%ポイント程度（4月は3.70%ポイント）だった（前掲図表1）。

（図表3）

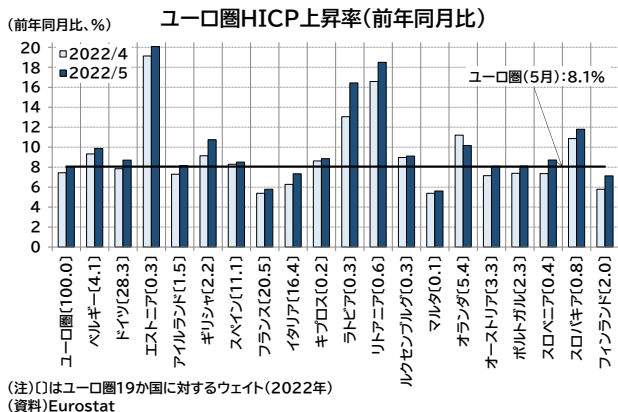


（図表4）

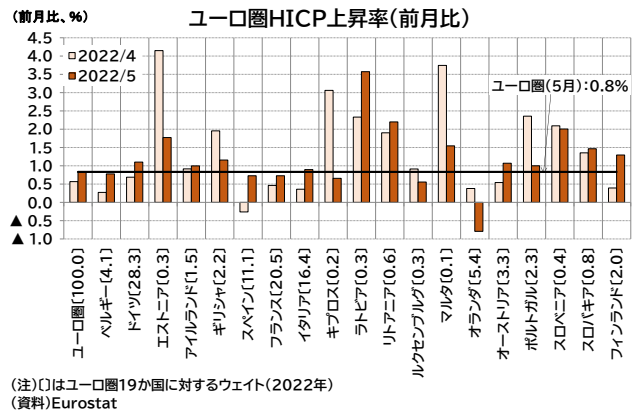


「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で7.5%（4月6.3%）となった。飲食料のうち加工食品の伸び率は7.0%（4月5.4%）、未加工食品は9.1%（4月9.2%）であり、未加工食品の高めの伸び率が続くなかで、加工食品の加速が飲食料全体の伸びをけん引している（図表4）。飲食料の前年同期比寄与度は1.68%ポイント程度（4月は1.35%ポイント）まで拡大している。

（図表5）



（図表6）



国別のHICP上昇率では、5月は前年同月比で19か国中18か国が加速しており、2桁の伸び率を記録している国が6か国（エストニア、リトアニア、ラトビア、スロバキア、ギリシャ、オランダ）ある（図表5）。前月比では19か国中オランダを除く国がプラスの伸び率だった（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。